

各教科等における 「令和2年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

新学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されました。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科等の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、その具体的な姿を「阿波っ子 学びのススメ10か条」に示し、「豊かな心」・「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的部分と付加的部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見直しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に合った適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

- 何が書かれているかを的確に捉えよう！



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連付けてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



中学校の各教科等の重点

目指す子供の姿

- 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。
- コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し，生徒が自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動の充実を図る。
- ◇「言語活動→言語材料の指導→言語活動」といった授業展開で，学習した語彙，表現などを繰り返し活用させながら学習事項の定着を図り，表現する力を高める。
- ◇言語材料についての理解を深める練習は，言語活動を成立させるためには必要であるが，練習だけで終わることのないように留意する。
- ◇教科書等の学習内容と言語活動とを関連付けられるよう工夫する。

②4技能5領域（聞くこと，読むこと，話すこと【やり取り】，話すこと【発表】，書くこと）を関連付ける指導

- ◇領域間の統合的な授業展開（例えば，読んだものについて，感想や自分の考えなどを話したり書いたりするなど）になるよう工夫し，年間を通じて4技能をバランスよく育成する。
- ◇生徒が「できること」を実感できるように評価方法を工夫するとともに，小中高の連携を意識したCAN-DO型学習到達目標を設定し，生徒と目標を共有することを通して，指導と評価の一体化を図る。